

朱漆器○中略

飯碗一口徑八寸、料漆一合二勺、朱沙一分、貫布五寸、繩布各一寸、綿三分、掃墨二勺、油一勺、炭一升、長功一人大半、中功二人、短功二人小半、

羹碗一口徑七寸、料漆一合二勺、朱沙一分、貫布五寸、繩布各一寸、綿三分、掃墨二勺、油一勺、炭一升、長功一人小半、中功一人大半、短功二人、

〔風俗併人氣質三〕早天から借屋を見廻る俳人の宿這入

傍から四人が合槌うつひやうしにて、○かた地にして、膳碗○貳十人前○中略、外に茶氣のすいもの碗五人分づ、五通湯盆すきや物まなく、明日御みせ下され○下略

〔御伽名代紙子二〕念佛講の酒で酔が廓の座敷踊

界筋の椀屋久右衛門といふ身上よしの一子、久兵衛として一人もひとりがらと器量よく、○かも親の根來ものに劣らぬ、布著せの堅地にて、若けれど始末を第一に心がけ○下略

〔槐記〕享保十一年四月廿一日、御茶○中略 御會席御椀、内外朱ニテ角ヨリイトゾコマテ黒 十三年二月十一日、御

茶○中略 御會席中略椀、イトゾコ、外クリイロ

〔喰初口傳〕椀などにも、鶴龜、松竹を白繪に、白粉にて蒔繪にして○下略

〔婚禮道具諸器形寸法書人〕武家ノ高家ニ正月ナドノ祝儀椀有之、朱漆ニシテ鶴龜松竹書之、

〔茶道筌蹄五〕吸物椀之分

網ノ繪 小は原叟好、喰初椀形は了々齋好、

〔可笑記三〕むかしさる人の云るは、○中略さて膳部の事、椀折敷ちいさめなるをよしとさだめて、○下略

〔立身大福帳七〕椀家具